

## 企 画 書

企 画 名	みんなで拠点の看板を作ろう！	
日 時	令和2年12月4日(金)	
場 所	当拠点	
目 的	1.全員で1つの作品を完成させる。 2.お互いに違いを認める。(1人1人が好きな色を使い、それがどんな色であれ、良いと認める。) 3.相談や協力しながら、作品制作を通してチームワークづくりを行う。	
時 間	内 容	備 考
14:00	※事前に、ワークショップの目的や流れについてのオリエンテーションを行う。 (宿題は土曜日に行くことを伝えておく) (汚れてもいい服装)	職員: K,M,I,O,T,  講師: 町田隼人氏 協力 Litterati Japan(リテラテ イジャパンより大 学生2名)  準備するもの: テーブル 新聞紙 筆
14:30	講師、大学生が集合し、準備。(外にテーブルを並べる。3グループつくる)	
16:00	下校後すぐに3グループに分かれて、色塗りに取り掛かる。 片付け 片付け終わり次第、おやつ	

### ☆☆ 反省・子ども達の様子 ☆☆

<p>・1週間前から事前オリエンテーションを開始し、めあての確認や当日の服装、流れの説明を行った。当日は、下校後グループごとに説明を行ってすぐに作業に取り掛かった。ペンキを塗る際、筆やペットボトルの蓋、指を使った。半数の子ども達がペンキを使うのが初めてで、作業しながら「たのしい〜！」という声やペンキを触ったり、手に塗ったり楽しそうな表情を見ることができた。また、3年生女児が、途中から参加した幼稚園生に、説明してくれたり、一緒に作業をしてくれたりと、日頃から関りのある子への優しさを見ることができた。</p> <p>〈成功要因〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下校してからの作業となるため、1週間前から説明を行うことで児童らへの事前準備(心構え)として機能した。</li> <li>・去年から関わっている講師で、コミュニケーションを取りやすく、指示に従いやすかった。継続しての関係性が児童らにとって安心感につながっている。</li> <li>・学生ボランティア(大学生)が児童らと一緒に楽しんで作業してくれたことで、創り上げる楽しさをより感じてくれたようだった。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“お互いに違いを認める”との目的をあげたが、作業の途中、「俺たちの方が上手」「このグループ下手」という、発言があった。今後もチームワークづくり、互いを認めることができるような日頃からの声掛け、関わり、行事を持っていく必要がある。</li> </ul>
--

2020年12月4日(金)  
「うるまわいど」の看板をつくったよ！

